

英語科学習指導案

実施日 平成23年6月29日
実施クラス 2年3組
授業者 長谷川 高丸

1 指導単元 New Horizon 3 (東京書籍) Unit 3 E-pals in Asia

2 単元設定の理由 (学習指導要領 (現行) (3) - エ)

新出表現は、to 不定詞の副詞的用法・名詞的用法である。to 不定詞は、phrase として繰り返し練習しやすい表現なので、既習の一般動詞を使って復習の一助となる。

また、to 不定詞の意味・用法も習得させる。単元の内容は、生徒にとって身近な存在となっているコンピュータやインターネットの話題から始まり、ウェブページ上で「マンガ文化」について情報の交換をするといった日本発信型の異文化理解をねらいとしている。

3 単元の指導目標

- (1) ゲームやワークシートの問題に意欲的に取り組み、積極的に英語を運用させる。
- (2) to 不定詞の用法を理解し、Unit 3 の基本的な単語を学び、内容を読み取ることができる。
- (3) 本文の内容に関して、聞き取りの問題を理解したり、英語の質問に英語で答えられる。

4 単元の指導計画 (5 時間扱い)

	主な学習活動	評価規準
第1時	to 不定詞の副詞的用法 (Starting Out) [本時]	他者と意欲的に会話できたか。(表現)
第2時	to 不定詞の名詞的用法 (Dialog)	他者と意欲的に会話できたか。(表現)
第3時	メールの読解 T of F ・ Q & A (Reading for Communication)	内容を理解し質問に適切に答えられたか。(理解)
第4時	メールの読解 T of F ・ Q & A (Reading for Communication)	内容を理解し質問に適切に答えられたか。(理解)
第5時	紹介メール文の作成 (Reading for Communication) 家事アンケートの聞き取り (Listening Plus 3)	意欲的に自己表現することができたか。(表現)

5 授業改善のポイント「言語活動の充実」の観点から

英語独特の発音、リズム、イントネーションを意識しながら、Reading 練習をするよう指導している。また生徒同士の対戦型ゲームは初めてなので、英語でコミュニケーションとりながらゲームを楽しむ感覚を味わわせたい。

6 本時の授業

(1) 本時のねらい

- コミュニケーションへの関心・意欲・態度
- ・ゲームを通して、意欲的に対話をする。

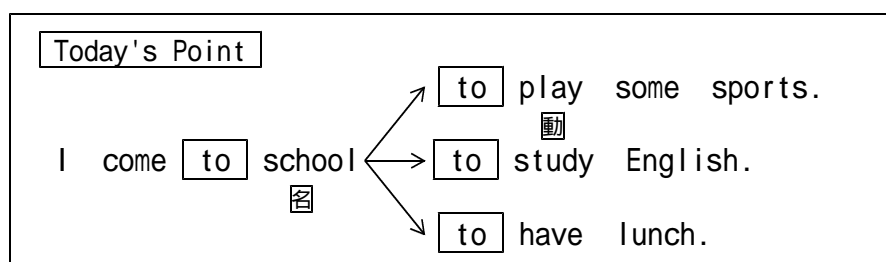
言語や文化についての知識・理解

- ・ to 不定詞の副詞的用法に関する働きを理解し、運用する。

(2) 本時の展開

	学習内容	教師の働きかけ	予想される生徒の反応	指導上の留意点（評価）
導入 10分	挨拶 Listening Plus 2	挨拶する。 ポイントの単語に注意させる。	挨拶する。 集中して聞く。	元気よく挨拶できているか。 音量が適切か留意する。 ポイントの単語が聞き取れているか。
展開 35分	Today's Point を導入 to の使い方を習得させる Reading <u>Communication Activity</u>	板書しながら、既習内容である前置詞の to を復習しつつ、to 不定詞の副詞的用法を導入する。 “Why do you come to school?” シートの例文を読む。 ゲームを説明し、練習する。	I come to school. などの英文を発表する。 「部活」「勉強」「友だち」など 大きな声で読む。 ゲームに参加する。	意欲的に挙手できているか。 テンポよく進んでいるか。 英語で答える手助けをする。正しい言い方でなくとも発言することを優先する。 リズムよく読めているか。 積極的にゲームに参加しているか。
まとめ 5分	Listening & Reading Choral Reading Buzz Reading 挨拶	英語のリズム・イントネーションを意識させる。 挨拶する。	静かに聞き、大きな声で読む。 挨拶する。	正しい発音を意識させる。 元気よく挨拶できているか。

7 本時の板書計画



8 授業を終えて

授業全体は普段通りの落ち着いたある和やかな雰囲気の中で行うことができた。本時のねらいである「to 不定詞の副詞的用法」に関して、生徒は大きな抵抗を感じることはなかったと思われる。ゲームの進め方はほぼ想定した範囲内であり、生徒の取組も意欲的であった。しかし、ワークシートの例文を読むときなど、その方法を工夫しながら生徒の表現力をより育てるようにする。